様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 １６ 日現在

機関番号：３２６６３
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０８７６

研究課題名（和文）昭和前期における日本人とタタール系トルコ人との交流史

研究課題名（英文）The relationship between Japanese people and Tatar exiles during the first half of Showa era

研究代表者
三沢　伸生（Misawa, Nobuo）

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：８０３２８６４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,600,000円、（間接経費）　1,080,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本とイスラーム世界との交流史、とりわけ日本が本格的にイスラーム世界との交流を推進した昭和前期を研究対象期間として設定し、その交流に大きな役割を演じたタタール系トルコ人と日本人との交流の詳細な実態に関して研究した。具体的にはタタール語・日本語で記された様々な1次・2次史料を日本およびトルコにおいて探索・収集・分析しながら、どのような関係が構築されて来たのかを解明した。
　在日タタール人と交流を有していた大久保幸次・駒沢大学教授の著作・私文書史料、イスタンブルで発見した日本居住のタタール人家族の写真アルバムなど、様々な1次・2次史料の発掘・分析を通して在日タタール人の活動を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research was related to the relationship between Japan and the Islamic World during the first half of Showa Era, because the Japanese people tried to promote the contact with the Islamic World. For the purpose of this theme, I tried to shed light on the Tatar exiles in Interwar Japan, based on the analysis of the various source materials in both Japan and Turkey.
　Specifically, I tried to clarify the roll of Tatar exiles in Japan during the first half of Showa era, depending on various source materials, such as the photographs and letters of Prof. Koji OKUBO(Komazawa University), who was the pioneer of the Turkish study in Japan and the meditator between Japan and Tatar exiles. I also drew up the life of the Tatar exiles through the family album of a Tatar exiles in Japan and Korea, which I found in Istanbul.

研究分野：東洋史

科研費の分科・細目：比較・交流史

キーワード：タタール　トルコ　イスラーム　回教政策　アジア主義　イスタンブル　満州　移民

１．研究開始当初の背景

日本とイスラーム世界との関係史は国内・国外において長らく看過されてきた研究課題である。明治維新以降に創始された日本によるイスラーム世界への接触は、やがて戦前・戦中期の「回教政策」の枠内に収束していき、戦後において全面的に否定されるに至った。このため現代の日本においてイスラーム世界との関係は戦後復興における石油輸入に始まるかのように認識されている。戦後において戦前・戦中期における「回教政策」立案・実施の詳細は学術的に精査されることなく封印されてしまったのである。一方、同じく近代のイスラーム世界では中核を担ったオスマン帝国が、内からは構成諸民族の独立運動と外からは英仏を中心とするヨーロッパ列強の進出とによる混乱のなかにあって第一次世界大戦によって瓦解し、ヨーロッパ列強の植民地体制下に組み込まれた「中東諸国家体制」へと移行した時期にあたる。このため、イスラーム世界からは非ヨーロッパ列強への対抗手段として日本への接触を図られていた。しかし日本との関係が充分に構築される前に第２次世界大戦へと至り、戦後に独立を果たした新興の中東諸国家では、戦前のように日本との関係を構築する必要性も消失してしまった。こうした背景のもとに近現代における日本とイスラーム世界との関係は、国内・国外において長らく研究されることがなかったものの、ようやく近年その重要性が認識されて複数の研究が始動している。本研究もこうして研究動向のもとに日本とイスラーム世界との関係史の学術研究の一環として立案されている。

こうした状況にあって、戦前・戦中期さらには朝鮮戦争終結に至る昭和前期において、ソ連から日本および満洲・朝鮮半島に亡命・滞在していたイスラーム教徒であるタタール系トルコ人たちの活動は極めて重要である。タタール系トルコ人たちは宗教的・民族的に自分たちを弾圧するソ連に対抗するため支援勢力として日本に亡命・接近し、同時に日本人は特に大アジア主義を標榜する民族主義活動家・軍部・政治家たちを中心にタタール系トルコ人たちを用いて、中近東はもちろんのこと多数のイスラーム教徒を抱える中国・東南アジア諸国に日本の権益を拡張するための「回教政策」を推進していった。このように戦前・戦中期において、日本人とタタール系トルコ人との利害一致のなかで、日本とイスラーム世界の交流がはかられていたのである。戦後に日本の敗戦にともない大アジア主義が後退していくなかで、日本は「回教政策」を放棄し、また朝鮮戦争終結後に在日タタール系トルコ人はトルコ共和国の国籍を取得して日本から出国していってしまい、こうした歴史は忘却されていってしまった。関係者が高齢になっている現在、日本やトルコなどにおいて聞き取り調査や日記・書簡・写真など基本史料が失われる前に、早急に探索・収集・分析しながら、両者の交流史を解明していくことは重要な研究課題である。

研究代表者は本研究を開始するまでに参画してきた諸研究プロジェクトにおいて、日本人とタタール系トルコ人との交流史にかかわる基本史料を発見・収集・分析し、いくつかの史料は電子媒体として一般に公開してきた。さらにその研究過程で知己となったトルコ人やロシア人研究者との交流の中で、埋没している史料発見の糸口を掴むとともに彼らとの共同研究を進めてきた。こうした背景のもとに本研究を開始するに至った。

２．研究の目的

本研究は、日本とイスラーム世界との交流史、とりわけ日本が本格的にイスラーム世界との交流を推進した昭和前期を研究対象期間として設定し、その交流に大きな役割を演じたタタール系トルコ人と日本人との交流の詳細な実態に関して研究するものである。従前、ほとんど研究されてこなかったこの研究課題は、近年になってロシアやトルコにおいて研究がようやく開始されだしている。本研究では、戦前・戦中期においてタタール系トルコ人がロシア・ソ連から脱して亡命した日本・満洲・朝鮮半島で刊行していたタタール語（＝アラビア文字で表記される諸トルコ語の１つ）刊行物、さらには朝鮮戦争の頃まで日本に住み続けていた在日タタール系トルコ人の手記・写真といった史料を探索・分析しながら、研究の基盤となる史料データベースを構築しながら、同時に彼らの活動を解明していくことを目的としている。すなわち、第１に基本史料の探索・収集することを目標とし、第２に収集した諸史料の分析を通して日本人とタタール系トルコ人との交流史の全体像の解明を行うことを目的としている。

３．研究の方法

本研究は、上述の研究目的のために昭和前期における日本人とタタール系トルコ人との交流史にかかわる基本史料を、トルコ人研究者・ロシア人研究者など外国人研究者を共同研究者として迎えながら、日本のみならずトルコ・ロシアなど世界的規模で探索・収集・分析しながら研究を推進していく。史料は、第１にタタール系トルコ語史料、第２に日本語史料の２つである。とりわけ所在確認が遅れている日本・満洲・朝鮮半島で刊行されていたタタール系トルコ語刊行物史料、在日タタール系トルコ人の私文書史料の探索・収集・分析が中心となる。日本語史料に関しては所在確認が容易な刊行物史料よりも、在日タタール系トルコ人交流を有していた日本人（学術関係者・軍人・アジア主義活動家など）の私文書史料の探索・収集・分析を行い、昭和前期における日本人とタタール系トルコ人との交流の全体像を解明する。

具体的な史料探索方針は次の通りである。

(1)タタール系トルコ語史料部門

本部門では、さらに１次史料（日記・書簡・個人写真など私文書史料）と２次史料（図書・パンフレット・新聞・雑誌などの刊行物史料）とに区分しながら、両者について探索・収集・分析調査を進めていく。

本部門の史料は世界的に散在する一方で所在確認が遅れ、散逸・消失の恐れが高く、その探索・収集・分析が急務である。このためにトルコ人研究者の Ali Merthan DÜNDAR 准教授（トルコ共和国アンカラ大学所属）、ロシア人研究者の Lalisa OUSANOVA 氏（ロシア・アカデミー所属）など外国人研究者を共同研究者として迎え入れて作業を進める。

１次史料としては、日本・満洲・朝鮮半島など昭和前期の戦前・戦中期においてソ連から日本へと亡命してきたタタール系トルコ人の私文書が中心となる。すでに DÜNDAR 准教授は個人的に現在トルコ在住の在日経験を有するタタール系トルコ人家庭を対象とする聞き取り調査を開始されており、その過程で日記・書簡・写真アルバムを入手されている。そこで DÜNDAR 准教授の既収集史料に関して分析を進めるとともに、現在トルコ在住の在日タタール系トルコ人ネットワークから、同様の史料の探索・収集と聞き取り調査を行い、その史料の分析を行うことを計画している。

2 次史料としての刊行物史料としては、2009 年度より研究代表者と DÜNDAR 准教授との共同研究によって調査を進めている、戦前・戦中期において東京で亡命タタール系トルコ人によって設立された「東京回教印刷所」において刊行されていたタタール系トルコ語刊行物史料の徹底的探索・収集・分析を初年度に行うことを計画している。すでに同印刷所による図書刊行物においては、その 85%を探索して、電子スキャンによる収集、さらに Ali Merthan DÜNDAR & Nobuo MISAWA, *Books in Tatar-Turkish printed by Tokyo ’da Matbaa-i İslamiye (1930-38) [DVD ed., Ver.1]*, Tokyo: Toyo Univ., 2010 という DVD 版史料集として一般に公開してきた。そこで本研究では、従前までに探索できなかった残り 15%についてその探索と同様の収集を行い、完全を期することを計画している。さらに同印刷所は北一輝をはじめとする大アジア主義活動家および日本軍部と関係を結んで、*Japon Mohbiri*（＝日本情報） また *Yeni Japon Mohbiri*（＝新日本情報）という、中近東をはじめとするイスラーム世界に日本を紹介するタタール系トルコ語雑誌を刊行していていた。同雑誌は日本の公的研究機関にその極一部が残るのみで、トルコ共和国、ロシア、アメリカなどに散在してしまっている。上記の図書刊行物とあわせてこの雑誌刊行物に関しても探索・収集・分析を行う。DUNDAR 准教授によればアメリカ西海岸サンフランシスコのタタール系トルコ人共同体に同雑誌のまとまった私的なコレクションの存在が確認されており、その探索を行う。

また同印刷所はイスラーム信仰にかかわるパンフレットや絵葉書も印刷していた。その一部は日本では早稲田大学中央図書館の旧大日本回教協会史料のなかに残されており、図書・雑誌刊行物を補完する史料として可能な限り発掘・収集・分析を行っていく。

またタタール系トルコ語に関しては刊行物として奉天（満洲）で刊行されていたタタール系トルコ語日刊新聞である *Milli Bayrak* にかんして、困難が予想されるものの探索・収集・分析を進めていきたい。

(2) 日本語史料部門

本部門では主として研究代表者が日本において探索・収集・分析を行う。また研究代表者が所属する東洋大学アジア文化研究所客員研究員である福田義昭（大阪大学外国語学部非常勤講師）を研究協力者に迎えて、同氏が専門とする神戸や関西のタタール系トルコ人の史料探索・収集・分析を行う。

日本語史料も１次史料（在日タタール系トルコ人と交流を有していた日本人の私文書）、2 次史料（図書・新聞・雑誌などの刊行物史料）とにわかれるが、タタール系トルコ語史料に比べて 2 次史料に関してはその所在がはっきりしているのが特徴である。2 次史料に関してはすでに研究代表者による史料所在探索・一部収集をすでに推進しており、本研究では昭和前期の新聞を主たる史料としてタタール系トルコ人の活動の記録を分析することとする。

一方、１次史料に関してはタタール系トルコ語私文書史料と同じく、現在、散逸・消失が危惧されており、その探索・収集・分析が急務である。研究代表者はこれまでの研究プロジェクトにおいて戦前・戦中期に在日タタール系トルコ人と行動をともにしていた故・大久保幸次・駒沢大学教授の原稿・写真史料の所在を確認した。そこで本研究では大久保幸次関係私文書史料を収集・整理・分析することを計画している。

上記でもって同時並行で探索・収集・分析をしてきたタタール系トルコ語史料と日本語史料との研究成果によって、まずは昭和前期における日本人とタタール系トルコ人との交流の全体像を明らかにすることを計画している。

４．研究成果

前述の研究の目的・方法に基づいた研究により次のような成果を達成した。

(1) タタール系トルコ語史料部門

本研究における主目的として、戦前・戦中期に東京・渋谷で在日タタール人たちが開設した東京回教印刷所（Tokyo ’da Matbaa-i İslamiye）から刊行された単行本・逐次刊行物の探索・収集・分析を筆頭に挙げたものの、その探索は困難を極めた。単行本に関しては市販されずに関係者にのみ配布された東京回教学校の 10 周年写真アルバムを発見・入

手することが出来たものの、それ以外の単行本に関しては発見に至らなかった。逐次刊行物に関しては、Yeni Japon Mohbiri（＝新日本情報）に関して新規に3冊の発見をすることが出来たのみにとどまった。本研究においてアメリカ西海岸地区のタタール人共同体との接触は限定したものに留まったものの、東京および現在はトルコに移住した在日タタール人関係者との接触は進展し、現在も継続しているので、本研究終了後も探索を継続していく所存である。

一方、1次史料に関しても東京および現在はトルコに移住した在日タタール人関係者との接触の中で探索を進めてきたが、本研究においてトルコにおいて、戦前期に日本・朝鮮半島に住んでいたタタール人家族の写真アルバムを発見することできたのが収穫であった。当該アルバムは研究代表者の奉職する東洋大学アジア文化研究所のリサーチペーパーシリーズの1冊として影印版を製作・刊行した。

(2)日本語史料部門

本部門では、研究協力者の大澤広嗣との共同作業で戦前・戦中期において在日タタール人と交流を有した、我が国におけるトルコ研究の草分け的存在である大久保幸次・元駒澤大学教授の業績に関して、著書・論文・記事について網羅的な調査を行い、その著作目録データベースを完成させた。その成果を研究代表者の奉職する東洋大学アジア文化研究所のリサーチペーパーシリーズの1冊として、著作目録データベースとあわせて、大久保の業績、日本・トルコにおいて収集した写真史料を収録する英文書として刊行した。大久保関連の私文書に関しても電子化・データベース化を完成させた。しかし個人情報保護のために上記の英文書のように公開することに関しては手控えている。

2次史料として戦前・戦中期の新聞に関して調査を行ったが、そのなかでも従前までの研究では等閑視されていた仏教系日刊新聞である『中外日報』について、研究協力者の大澤広嗣と調査を行い、同紙に所収される関連記事目録データベースを構築して、日本語・英語で論文形式で公開した。また『読売新聞』はじめ大手新聞に関しては各社が推進するデータベースを活用して関連記事のデータベースを構築した。

また研究協力者の福田義昭（大阪大学外国語学部非常勤講師）の協力で関西地区の在日タタール人関係の史料、とりわけ小説に表象される史料の発掘・調査を行った。

また当初は計画していなかったが、日本人とタタール系トルコ人との交流の前史をなす、日本が対イスラーム世界との貿易拠点としてイスタンブルに構えた「イスタンブル日本商品館」について、トルコ語の単行本と日本語の資料集を刊行した。

そのほか本研究に関連して、日本・トルコ関係史について、後述のような図書・雑誌論文・学会発表を行ったことも本研究の成果である。

本研究の成果の一部は、研究代表者の WEB サイトに組み込み、一般に公開している。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　8　件）

①三沢伸生、戦間期のイスタンブルにおける日本の経済活動（6）：コンスタンチノープル日本商品館（イスタンブル日本商品館）に関する研究、アジア文化研究所研究年報（東洋大学）、査読無、48号、2014、129-148

② Nobuo MISAWA, Göknur AKÇADAĞ, The beginning of the Japanese language education in the Ottoman Empire, *Osmanlı Araştırmaları*, 査読有, 41, 2013, 253-278

③ Nobuo MISAWA, Koji OSAWA,Japanese opinions about Islam before and dureing World War II: Articles related to Islam in Chûgai Nippô, 日本中東学会年報、査読有, 28-2, 2013, 107-126

④三沢伸生・大澤広嗣、『中外日報』所収イスラーム関係記事目録（1937-45年）：データベース化事業を通して、アジア文化研究所研究年報（東洋大学）、査読無、47、2013、327-354

⑤Nobuo MISAWA, The first Japanese who resided in the Ottoman Empire: the young journalist NODA and the student merchant YAMADA, *Mediterranean World*, 査読無, 21, 2012, 51-69

⑥三沢伸生・大澤広嗣、在日タタール人と日本の学界との接点：大久保幸次の著作分析、アジア文化研究所研究年報（東洋大学）、46、査読無、2012、327-354

⑦石井隆憲・三沢伸生、近代スポーツ・メディアとアジア民族に関する覚書：民族スポーツとして格闘技の検証に向けて、アジア文化研究所研究年報（東洋大学）、46、査読無、2012、355-358

⑧Nobuo MISAWA, Ertuğrul Mürettebatının Japonya Günleri : Facia, kolerayla başladı, *Atlas Tarih*, 査読無, 8, 2011, 74-81

〔学会発表〕（計　5　件）

①三沢伸生、極東・日本のタタール人;20世紀の国際情勢の中で―、シンポジウム・タタールの過去・現在、そして未来へ（於：駐日トルコ大使館文化部ユヌス・エムレトルコ文化センター）、2013年

② Nobuo MISAWA, Tahrir Defterlerinde Osmanlı İdari Genişlemesinin İzleri: XVI. yüzyılda Malatya ’daki Toprak Düzeni（＝検地帳にみえるオスマン朝の地方行政制度の発展）, *Osmanlı Coğrafyası*

Kültürel Arşivi Mirasının Yönetimi ve Tapu Arşivlerinin Rolü Uluslararası ***Kongresi***, **Istanbul** : Arşiv Dairesi Başkanlığı, 2012
※トルコ語

③ Nobuo MISAWA, Abdürreşit İbrahim ve Japon Milliyetçileri（＝アブデュルレシト・イブラヒムと日本のアジア主義者たち）, *Uluslararası Abdürreşit İbrahim ve Türk-Japon İlişkileri Bilgi Şöleni*, Konya:Konya Japon Kültür Merkezi, 2012
※トルコ語

④三沢伸生、アジア主義とイスラーム主義の交錯：亜細亜義会をめぐって、国際シンポジウム　戦前日本の対回教圏政策とトルコ（於：東京外国語大学国際日本研究センター）、2012 年

⑤三沢伸生、内藤智秀とイスラーム、庄内からイスラームを考える、（於：山形、日本中東学会公開講演会、2011 年

〔図書〕（計　8　件）

①三沢伸生（編）、イスタンブル日本商品館関係資料集－戦間期のトルコにおける日本の経済活動(1)－、三沢伸生（東洋大学）2014、50

②Nobuo MISAWA (ed.), ***Album of Tatar Exiles in Interwar Japan,*** Asian Cultures Research Institute, Toyo University, 2014, 46

③ *Osmanlı Coğrafyası Kültürel Arşivi Mirasının Yönetimi ve Tapu Arşivlerinin Rolü Uluslararası Kongresi (21-23 Kasım İstanbul) Bildiriler*, T.C.Çevre ve Şehircilik Bakanlığı Tapu ve Kadastro Genel Müdürlüğü Arşiv Dairesi Başkanlığı 2013, 3 vols.
※分担執筆、トルコ語

④松浦正孝（編著）、アジア主義は何を語るのか－記憶・権力・価値－、ミネルヴァ書房、2013、671　※分担執筆

⑤ Okan Haluk AKBAY (haz.), *Türk-Japon İlişkilerinin Dönüm Noktasında Abdürreşit İbrahim*（＝日本・トルコ関係史上のアブデュルレシト・イブラヒム）, Konya Japon Kültür Merkezi, 2012, 343
※分担執筆、トルコ語

⑥Nobuo MISAWA (ed.), ***Tatar exiles and Japan*** : *Kôji ÔKUBO as the meditator*, Asian Cultures Research Institute, Toyo University, 2012, 48

⑦ Türk - Japon Kültür Derneği (haz.), *Gönül Bağı : Türk-Japon İlişkilerinin 120. Yılı*（＝絆：日本・トルコ関係 120 年）, Türk - Japon Kültür Derneği, 2011, 83　※監修者、トルコ語

⑧ Nobuo MISAWA, *Türk-Japon* ***ticaret*** *ilişkileri*（＝日本・トルコ通商史）, İstanbul Ticaret Odası, 2011, 166　※トルコ語

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）
○取得状況（計　0　件）

〔その他〕
ホームページ等

三沢伸生研究室　NM-LABO
http://middleeast-asia.sakura.ne.jp/wp/misawa/

６．研究組織

(1)研究代表者
三沢伸生（MISAWA, Nobuo）
東洋大学、社会学部社会文化システム学科、教授
研究者番号：80328640

(2)研究分担者（0）
(3)連携研究者（0）